

平成 27 年度 「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)
1 対 1 対談 (多気町) 会議録

1. 対談時間

平成 27 年 9 月 11 日 (金) 09 時 20 分～10 時 20 分

2. 対談場所

高校生レストラン 「まごの店」
(多気町大字五桂 956 五桂池ふるさと村内)

3. 対談市町名

多気町 (多気町長 久保 行央)

4. 対談項目

- 1 伊勢志摩サミットに伴う多気町の“食”イベントの可能性について
- 2 (仮称) アクアイグニス多気計画にかかる支援について
- 3 鳥獣被害防止対策について

5. 会議録

(1) 開会あいさつ

知 事

はい、皆さんおはようございます。本日は久保町長におかれましては大変お忙しい中 1 対 1 対談のお時間をいただきましてありがとうございます。限られた時間ですけれども有意義にすごしていきたいというふうに思います。大変お忙しい中、西場県議・濱井県議はじめ地元の町議の先生方も多くお越しいただきましてありがとうございます。また、商工会会長の松浦会長もお越しいただきましてどうもありがとうございます。

台風 18 号、三重県の方は一定の住宅の浸水や土砂・法面崩壊などあって、復旧に向けて現在、県全体では進めているところですが、栃木・茨城・宮城等、大変大きな被害を受けております。私たち、風水害の多い土地でありますので、実は今回も警察庁から応援要請がありまして、へりの方を東京の方に出させていただきましたけれども、他山の石として、本当に我々も日ごろからの備えを万全にしていかなければならないなど改めて思っているところでもありますので、引き続き皆さんと連携して防災対策やっていきたいというふうに思っております。さて、県立高校なので私がお礼を言うのも変な話なんですけれども、多気町さんにおかれましては、相可高校「まごの店」、大変応援をしていただき、地域の宝として扱っていただいていることは本当にうれしく思うところでありま

す。先般もミラノに行って相可高校の子たちと、あるいは京都吉兆の徳岡総料理長とともにコラボをしてもらって、大変ヨーロッパでも評判のいいところでありました。これからも、様々な場面でこの多気町の宝であり、また県の宝である相可高校の子どもたちの取り組みを紹介・発展させていけるようにやってまいりたいというふうに思います。また後ほど、町長からPRがあるかもしれませんが、マウンテンバイク、自転車の街づくりもしっかりやっていただいております。先般ヨーロッパへ行ったときも、東京オリンピックの事前キャンプ地誘致で多気町のマウンテンバイクの会場について、イギリス・フランスのオリンピック関係者にPRさせていただいたところでもあります。これからさらにキャンプ地誘致、本格化してくると思いますので、ぜひとも連携をして取り組んで、少しでも多くキャンプ地誘致を獲得できるようにオリンピック・パラリンピックをやっていききたいというふうに思いますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。それでは今日は限られた時間ではありますが、サミットのこと等大変重要な課題もありますのでぜひともよろしくお願いしたいと思います。本日はどうもありがとうございます。

多気町長

おはようございます。まず知事の方にお礼を申し上げたいと思います。ようこそ、多気町に来ていただきまして。また、まごの店にも来ていただきましてありがとうございます。ちょっと、ここに上がってくる前に知事と話をしておりました。本当に幸い、他山の石といわれましたけど何も無くてよかったな、と思っています。気を引き締めて、まだまだこれから台風シーズン襲来してきますので気をつけてやっていききたいと思います。今日はこの会場をまごの店にさせていただきました一番大きな理由は、多気町は食の町だと。知事は十分まごの店をご存知なんですけれど、こういう思いであります。これは、昨年と同じように食の関係で「元丈の館」というところで、ここは薬膳の方ですけども、薬膳料理を食していただきました。そういう会場でやっておりました。去年の私どもの知事との対談の主目的は、1つはアクアイグニスの関係と、2つめは、子育て支援の関係で自然派保育園をぜひ支援をしていただきたいということでしたが、この件については、県費補助をつけていただきまして、本当にありがとうございます。あとの部分では、バイオマス関係があったと思うんですけど、こういうのも今順調に進めさせてもらっております。特に自然派保育園につきましても、現在、園の建設に関しまして造成を今やっております。来年度開園に向けてやっていききたいと、このように思っています。今回の対談、特にサミット関係につきましても、町の方からお話をさせていただくのが1点と、もうひとつは、去年とダブるかも分かりませんが、アクアイグニスの関係

と、あと、獣害対策についてを対談の中で取り上げさせていただきたいと思います。まごの店といいますと、知事も先ほどお礼と言われたんですけども、平成 17 年にここを町で作る時に、県立高校であっても町の方で約 7000 万円、お金を出しました。元々、文科省の「目指せスペシャリスト」という地域指定を受けまして、こういう施設ができたんですけども、おかげさまで順調に多気町は食の町だというのを PR できている大きな拠点であると思っていますので、今後ともまた皆さん方のご活用もいただければありがたいなど。今日は一日限られた時間ではありますけれどもよろしくお願ひします。

(2) 対 談

1 伊勢志摩サミットに伴う多気町の“食”イベントの可能性について

多気町長

それでは私の方から 1 つ目の伊勢志摩サミット、これにつきましては県内全ての市や町がなんとか応援、また関係や関わりを持たせていただきたい、ということで取り組みをされていると思います。連日新聞を見ておりますと、ほとんどの市町がこういうことを掲げられております。私たちの町も何かの形で参画をさせていただければとこういう思いがあります。初めにもちょっと言いましたけれど、なぜ高校生レストラン「まごの店」でやったかと言うと、その思いが十分ある。多気町は多くの食材というのも豊かであります。伊勢芋である、それから柿である、みかんである、お茶もある。そして松阪肉。そしておいしい地酒、河武の酒というのもありますのでこういうところで食に関するものがたくさんありますので、ぜひサミットには食に関する関わりをもたせていただければと、という思いがあります。

それでは、私の方から対談項目 1 つ目の主なものですが、三重県のホームページにアップされております「伊勢志摩サミット三重県民会議事業計画」等を参考に、本町も取り組める可能性のある食に関するイベントについて、次のことを申し上げたいと思います。

1 つ目はジュニアサミット。この計画につきましては、県内の高校生が参加者と交流できる機会を可能な限り設定したプランを国の方へ提案、とされておりました。ジュニアサミットにつきましては、日本の伝統文化、魅力、三重県ならではのテーマにスポットを当てる、こういう考え方が示されております。サミットの関係者、もしくはサミット参加国等の高校生が来日されるのであったら、これらの人たちと相可高校食物調理科の生徒たちで日本の食・三重の食をテーマにしたジュニアサミットの開催ができないか。ということをお考えしております。

2つ目が本町の食巡り。配偶者プログラム。このサミットの計画の中には、サミット参加者の配偶者が参加されると聞いておりますので、本町にお越しをいただいて、食のスポットを巡っていただける可能性がどうなのか。あと、海外のプレスツアーにつきましても、同様に多気町に来ていただいて食のスポットを巡ってもらう可能性と。

3つ目には食材の供給。サミット参加者・首脳に提供される食事の食材の一部を私たちの町から提供できないか。こういうことを思っております。

知 事

はい、ありがとうございます。サミットについて、何点かいただきました。今、県の方の進捗状況も含めて、町長もご存知の点もあるかと思っておりますけれども、せっかくの機会ですので改めてお話をさせていただきたいと思っております。

まず、ジュニアサミットにつきましては、そもそも開催をするかどうかということ、現在外務省の方で検討中と。これは、今年のドイツでは開催されましたけれども、その前は7年間ぐらい開催されていなかったので、絶対に開催をしてほしい。そして開催をするなら三重県で開催をしてほしいということで、現在外務省に要望をしております、他の地域でやりたいと言っているところはどうかあまり無いようですので、開催するなら三重県で開催してくれるという可能性は高いのではないかと思います、現在、議論をさせていただいているところであります。ジュニアサミット自体は、G7各国の高校生が大体1つの国から6人~10人ぐらい、それからそれと関係するEUやアウトリーチの国の高校生たち、それから関係者の皆さんがお越しになる訳なんですけれども、議論するテーマは、サミットに近いテーマかあるいはその地域ならではのテーマということになりますので、それを現在、これから三重県が、三重県で開催するとなりましたら、そのテーマを議論していくということになります。このジュニアサミットというのは、大体ドイツの時だと9日間ぐらいありまして、初日は到着、2日目が歓迎行事。大体3日目に色々な地域の高校生たちとの交流みたいなのがあって、4~6日が集中討議。7~8日かあるいは7日目が県内やその地域の視察みたいな交流イベント、それから最終日に首脳への提言というのが大体お決まりのパターンなんですけれども、そういう意味で、集中討議以外のところの交流という場面が、私たちとしては三重県で決まったらなるべく全県に波及するようにしていきたいというようなことで、高校生同士の交流という観点からは当然相可高校の生徒たちも、何らか交流できるようにしたいという私の強い思いを持っています。加えて、県内の色々なところを回ってもらう場合には、これはまだちょっと、私たちが外務省にこういう感じで提案しようと思っているというだけなんで、あれなんですけれども、全員が同じところを

回るとなると、時間も限られているので、100人かそのぐらい高校生がいますから、それを三重県で言うと5つぐらいの大きなブロックがありますので、5班に分けて分散型の視察に、ある20人は例えば東紀州に行く、ある20人は中勢地域に行く、ある20人は伊勢志摩に行く、ある20人は伊賀に行く、ある20人は北勢に行く、というような感じで、分散交流というか分散視察みたいな感じでやると県内になるべくたくさん行けるのではないかというふうな思いです。そういう提案を外務省に、三重県で決まればさせていただきたいというふうに思っています。それから、ジュニアサミットの関係では、サミット開催後にジュニアサミットで他国の高校生と交流をした高校生たちや、それ以外も含めた高校生たちによる高校生サミットというのをサミットの資産として残していきたいというふうに思っていますので、ジュニアサミット開催後も高校生の枠組みは何か残して、この三重県の、このサミットの次世代に残す成果のひとつとしていきたいというふうに思っています。

それから次は配偶者プログラムです。配偶者プログラムは1泊2日ですので、実質は初日の午後、その翌日の午前というところですので、伊勢志摩地域以外のところで多くの地域を訪問するのは物理的に難しい、というふうに思っていますけれども、なるべく多く行ってほしいと思いますし、それからもし仮に現地を訪れることができなくても、その地域のいいものを配偶者の皆さまに味わっていただいたり体験していただけるような工夫を、やっていきたいというふうに思っています。例えばどこかの訪問する地域に県内から色々な人たちに集結してもらって、そこで配偶者の皆さんと交流をしてもらうとか、対話をしてもらうとかそういうような形で少しでも多く県内の良さを知っていただくこと、あるいは県内の素晴らしい人々との交流、そういうのが実現できるようにしていきたいと思いますが、いずれにしても単なる物見遊山であってはいけないと思っていますので、テーマ性とかストーリー性を持たせた形で考えていきたいというふうに思っています。

それから海外のプレスツアーにつきましては、20回弱ぐらいやろうと思っています。既にASEAN10か国と中東5か国のプレスにこの8月にも来てもらいました。これからどんどん増えてくるというふうに思っていますので、例えば相可高校の食物調理科の取り組みとか、生徒や先生への取材を通じて発信してもらうようなプレスツアーも、ぜひ検討していきたいというふうに思っています。

それから食材の供給ですけれども、現在、市町を通じて推薦食材を照会させていただいているところですので、現在、リストの作成に向けて集約中でありましても、1品でも多く、この三重県の食材が使われるように国に提案していきたいと思います。首脳が食べるものだけでなく、配偶者の皆さんが食べるもの、あるいはメディアセンターに置く、24時間食糧を供給しないといけ

ませんので、置くもの。あるいはたくさんの数万人という方々が来られますので、そういう人たちへの弁当の供給等も含めて、様々食材を供給する場面がありますので、ぜひ県産食材 1 品でも多く積極的に提案をしていきたいというふうに思います。特に近年の傾向では今年 3 月に宮城県で行われました国連防災会議や今年 5 月に行われました太平洋・島サミット、こういう場においても、地域の食材をなるべく使おうとそういうようなことがよりそういう指向が強くなってきておりますので、洞爺湖サミットの時と比べてもそういう指向が強くなっていると思いますので、ぜひ県産食材 1 品でも多く使ってもらえるような提案をしていきたいというふうに思いますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

多気町長

ありがとうございます。ジュニアサミットにつきましては、昨日違う会議の場で副知事からもちょっと話を聞かせてもらって、滞在期間は 5~6 日ぐらいかなと、そんな話も聞かせてもらったので、何とかその間に私たちの町に高校生たちが来てもらえばありがたいなと思います。初めにちょっと言いましたけれども、多気町は今、こういうことを PR したいということで、県の方にも送らせてもらった、こういう多気の食巡りというのを送らせてもらいました。これは、多気町の食に関する、特に公に関わったところですけども、民間のところはいっぱいあるんですけど、公に関わったところではいきますと、ここ高校生レストランもありますし、農家レストランで国や県や町で補助もしている「まめや」というところ、これは精進料理というかほとんど野菜ばかりのところですけども、ここにあります。それから、先ほど言いました薬膳で「元丈の館」、これは野呂元丈さんの生誕地のところでやっている薬膳料理です。あと、唯一民間でとろろ料理をやってくれているところもあります。それからもうひとつ、多気町特産の松阪牛、これは松阪牛って言うけれども、私、ずっと言っているんですけども主生産地は多気町なんだ、過去 10 年間でもチャンピオンになっているのは、多気町は過去 4 回、その後は松阪市であったり明和町であったり、大台町であったりとか大紀町であったりとかするんですけども、4 回もチャンピオンになってその中で 5000 万円は多気町だけですもんね。こういう松阪肉がおいしいところと。あと、この秋に、山の向こうにあるんですけども、相鹿瀬というところで鮎料理を、これも県内でどこにもないと思うんですけども、茅葺の屋根で今作ってしまして、ここの社長はいいのかなと思うような、1 億円を超えるようなお金をかけて建物を作っています。こんなところで、食事をしていただければ。で、この提案書の中には、どれだけの方が来ていただいたら

対応できるかという人数もちょっと書かせてもらってあります。ここでありますと 50 人ぐらい。それから、農家レストランのまめやでありますと 30 人ぐらい。それから薬膳、元丈の館ですけれども、去年過ごしていただいたところ、あそこで大体 35 人ぐらい。とろろ料理のところでは 30 人ぐらい。あと、松阪肉の料理、ほとんどが焼き肉関係になると思います。滅茶苦茶うまいです。これで 10 数人。あと、鮎料理のところは 60 人ぐらい。こういう提案もさせてもらっております。具体的にこういう人数まであげさせてもらって来ていただければ、こう思っています。あと、この資料の中にも挙げていますけれども、また具体的にどんなものができるかは、また知事の方からお話がありましたら紹介させていただきたいと思います。

あと、配偶者プログラムにつきましては、ちょっとうちの方も手を挙げておりますけれども、ちょっと厳しいかなと思いましたが、日程が余裕が無いということもありますので、できれば、という思いがありましてそういう日程の中に多気町を組み込んでいただければありがたいなということで申し上げます。

それから食材につきましては、大体 5 月の末までなら、ちょっと初めに申し上げました伊勢芋も柿もみかんももちろんお茶は年中オッケーですけれども、そういうところを、食の材質から考えてまあまあいけるかなと。ちょっと伊勢芋につきましては 4 月にほとんど植え付けが終わっていますので冷蔵をしておかないと提供できませんけれども、おいしいのがいただけます。多気町として申し上げたいのは、よそにないものを多気町で食していただきたい。県内でも薬膳というのはそんなに出ていないと思いますし、伊勢芋料理もそんなに多く出ていないと思いますし、鮎はちょこちょこありますけれども、そういうところを何とかこう、三重県の中南勢の多気というところでこんなものがあるんだ、というのをやはりこう県さんの方からも発していただくのとよりうれしいかなと思います。

知 事

はい、ありがとうございます。今町長がおっしゃっていただいたもの以外に、私たちが特に注目しているのは、多気町のものの中にも豆腐作り体験とか伊勢芋料理体験とか、あとは食とか和食に関するワークショップみたいなやつとか、僕はさっきも配偶者プログラムのところで言ったんですけれども、単なる物見遊山みたいなやつは、配偶者プログラムもジュニアサミットも多分印象に残らないというか、もったいないと思うので、やはりこう体験ものとか、双方向の交流みたいなやつを提案していただいているのは、大変私たちありがたいと思いますし、もちろん多気町以外でもこういう体験を提案していただいているところは、非常に体験とか交流みたいなのをやっていたいところでは、私

たちとしても大変注目をしているところでもあります。あとは、こういうものをいかにジュニアサミットも配偶者プログラムもストーリーとかテーマ性みたいなものでくくっていけるかということだというふうに思っていますので、またそういう皆さまの様々なご意見、地域ならではの「実はこういうものにはこういうストーリーがあるんだよ」とか、「実はこういうものにはこういう隠れたテーマがあるんだよ」とか、そういうものとかも教えてもらってこのテーマ性、ストーリー性に合うようなものにぜひ仕立て上げていければなというふうに思っています。

あと、町長から言っていた他にない唯一のものを、というふうにおっしゃっていただいているのも、例えば先般 9 月 5 日に志摩市の方でサミットフォーラムやらせていただきましたけれども、ロビン・ハーディングさんというフィナンシャルタイムズの東京の編集局長さん、ずっとサミットを取材してきたアメリカの方は、どこでやったかというのが分かるオリジナリティとか、「日本でやったんだよ」とか、唯一のものとか分かるような、そういうことをやっていかないとせっかくサミットやってももったいないね、という話もされていまして、今おっしゃっていただきましたように唯一のものとかというのは、大変重要な視点であるというふうに思っていますので、またいただいているご提案、大変心強いご提案をたくさんいただいておりますし、この実行委員会等も組織していきながら議論していこうということも言っておりますので、私どももしっかりご提案を受け止めて 1 個でも多く実現できるように頑張っていきたいと思えます。

多気町長

知事から牽制球も放っていただきまして、おっしゃる通りで他所から来ていただいた人に同じような食のものばかりではやはりいけないと思います。かつ井や天井や牛井とか、定食の献立ではいけないので、多気町に行ってこんなもの食べたなというのが印象に残ってもらうのが一番です。それにはやはり、あまり他所でやっていないものを食していただきたい。やはり多気は食の町なんだなというのがわかってほしい。で、私が言いたいのは、その後ちょっと残してあったんですけど、多気町は一昨年 10 月に世界のパティシエと言われていきます辻口博啓さん、今ちょうど「まれ」という朝ドラやっていますけれども、あの主人公は、本当は辻口さんでしたということを知っているんですけども、石川県ですので、その方と、それからもうひとり、世界の、イタリア料理の料理人ですけども奥田政行さん、このお二人に一昨年多気町の医食同源のアドバイザーになっていただいております、もし多気町へジュニアなり、プレスなり、配偶者の方はちょっと難しいかなと思っているんですけど、来ていた

だいたときに、多気町のアドバイザーの人たちに、両方とも時間が合致すればいいんですけど、ひとりだけでもやっていただければ、パティシエの辻口さんに相可高校の生徒たちと一緒にそれから来ていただいたサミットの子どもたちと一緒にケーキを作る、こういうのができればと。で、もうひとり奥田さん、奥田シェフが来ていただいたら逆にイタリアン料理を学生たちと、それからサミットの子どもたちと一緒にできると、でそれを食してもらおうと。というのであれば、大いに他所にない食ができるかなと思っていますので、あと、薬膳というのもそんなに県内にあるのかな。あまりないですね。それと、やはり徳川吉宗のお目見え医師だったという人がかかわったというのが、僕も歴史が好きなのでやはり吉宗がやった小石川養生所で青木昆陽や野呂元丈さんが一緒に全国を回って薬草を集めて将軍のお薬を作った、そして病気になった時に将軍を診たところという人が出身した町の波多瀬というところでそういうのをやっていますので、これもやはりここで食べる薬膳料理は他所で食べる薬膳料理とは違うなど、できたらこういう機会に発信をできればと。多分、去年知事も薬膳料理を食べられてさらにパワーアップされたと思います。僕らみたいな年代になると、いたるところで体の悪いところが出てきますので、これから血压にいい食事とか、糖尿病にいい食事とか、そういうのをちょうど薬剤師の松浦ご夫婦もお見えなので、もっともっとPRをしていただければありがたいなと。

あと、立梅用水というのがありまして、食に来ていただいたときに、多気町の遺産を回ってもらおうと。時間が取れるかどうかわかりませんが。昨年、国の登録記念物になりました。世界のかんがい施設の遺産登録にもなりました。そういうところを回っていただくと。丹生の大師、弘法大師が開設した神宮寺というのもありますし、それから十一面観音の多気の近長谷寺というのもあります。そういうところを回っていただければありがたいと。こんなことをと思っていますので、ぜひその辺のことをもっともっとPRできればと思います。

2 (仮称) アクアイグニス多気計画にかかる支援について

多気町長

これは昨年も対談の中で取り上げをさせていただきました、アクアイグニス多気の計画についてでありまして、多分、今月の末ぐらいには新たな計画内容の発表ができると思っています。この計画というのは民間事業者の計画であります。ただ、地方創生の中でもよく言われていますけれども民間活力を活用するというのは結構あると思うんですけど、まさに、うちはそれをやっていただこうかなと。町も一生懸命応援をさせてもらっております。先般もうちの議

会の方でも連結道路設計予算というのを町でやっていこうということで、認めていただき、現在進行中であります。県の中南勢地域・紀州地域の地域活性化に期待できる計画ということで、町としても今言いましたような高速道路からの連結、伊勢からの観光客、それから紀州からの観光客を誘致をしようということで計画を進めております。地方への人材の還流や地域の食材の発展的な活用や雇用対策、また UIJ ターンのことと、それから多くの世代の交流の拠点、地域産業の競争力の強化と多岐にわたる事業効果が期待をされております。

この計画の中で、区域内を縦貫する幹線道路につきましては、高速道路の連結のための接続条件として公共道路で整備することが求められておりまして、町の主要観光施設や他地域への重要なアクセスとして大きな役割も持っております。この整備には多大な費用もかかりまして、民間事業者での対応というのは極めて厳しい部分もありますので、自治体側での施工支援、事業支援というのも求められております。今回このような計画に隣の町も含めて地域の活性化につながるインフラ整備といいますのは、我々のような人口規模が 15000 人程度でありますので、中々厳しい部分があります。今国の方での地方創生事業といいますのはソフト事業がメインでありますけれども、地方創生に取り込めというのではないんですけれども、これに関わった優先的な事業採択、町でやるか、もしかしたら県での対応というのも検討していただけるかもわかりませんが、こういうことを国に対して要望させていただければと、こう思っておりますのでよろしく申し上げます。

知 事

ありがとうございます。アクアイグニス多気が今月末にも新しい計画を発表ということですので、大変楽しみにしていますし、全体像を、私も詳しく承知しておりませんが、きっとこの地方創生の議論をしている中で、昨日も地方創生の会議をやったんですけれども、働く場が大事だねというようなことをおっしゃっていただきましたし、人口減少の中では働く場があってこそ若い人も定着できるし他の UIJ ターンもあるだろうということでしたので、アクアイグニス多気が完成すれば、仕事、働く場として大変期待できるものなのかなというふうに思っているところであります。その中で様々な整備、あるいはアクアイグニスの投資、あるいは事業運営に関する財政的な面のお話しなんですけれども、今町長がおっしゃっていただいたような形の中で、例えば今、来年度に向けても地方創生で、国の方では新型交付金の議論をしてもらっています。全国知事会でも、地方の実情に合わせてできるように、自由度の高い柔軟な制度運用になるようお願いをしたいということと、ちゃんとした規模を確保してほしい、というようなことを申し上げてきたわけではありますが、規模につい

では、前回 1700 億円であったわけですが、これって約 1700 自治体あるので、1 か所 1 億円みたいな感じなんですけど、それを大きく下回る 1100 億円ぐらい、1000 億円ぐらいという状況でありましたので、これは全国知事会としても我々としても大変残念な結果でありましたけれども、これから、制度設計にあたっては地方の意見を十分に踏まえるようにさらに検討してほしいということ、地方六団体の声明として出ささせていただいておりますし、我々としても、県単独としても要望させていただいているところです。まるっと「ハードをやる」みたいなものに、大きく転換するというのは無理だとしても「ソフトを生かすためにちょっとしたハード整備も対象になるように」ぐらいはしてほしいというふうに。私たちも様々な事業を色々な、多気町さん以外の市町の皆さんとも議論させていただいたり、他県の知事さんたちとも議論していても、絶対ソフトしかダメみたいなのではなくて、ソフトを生かすために必要なちょっとしたハード整備とかは認めてよね、というのは我々も思いますので、例えば子育て支援の関係のトイレのところとか授乳室のこととか、そういうのとかも、子育てをやる、支援をやるためのちょっとしたハード整備とか、そういうのぐらいは認めてほしいなど、我々も思っていますので、今おっしゃっていただいたような地域活性化に資するとか地域の雇用に十分資するとか、そういうような一定のものが見込める場合とか、そういうのに限定してもいいので、新型交付金においては地域の実情に応じた柔軟な制度運用となるような国への要望についてしっかり我々もやっていきたいと思っておりますし、新型交付金以外でも国の財源でアクアイグニス投資や運営等に使えるような国の財源があるならば、そういうものの対象になるような働きかけも多気町さんと一緒になってやっていきたいというふうに思っています。

多気町長

ありがとうございます。今年の1月26日に国の方に行きまして、この地方創生、石破大臣にもお願いをしました。東京や大阪や名古屋のような都市部と、我々の田舎とでは地域事情が違うんだと。まだまだインフラ整備をやらなくてはならない地方にとってはソフトを中心にと言われると非常に厳しい部分がある、ということも申し上げました。何とか全部とは言わなくても、ハード事業のかなりの部分は認めてもらうような中身作りをお願いします、ということをお願いしました。その時に、大臣の方が言われましたのは、違うそれぞれの部署のところで採択できるようにまた話をさせてもらうというように。その時は国交省の方も呼んでいただいて話をさせていただきました。違う事業となりますが、例えば社会資本整備で道路整備を町でやるとか、そんなことになるかなとは思いますが、アクアの場合は全体の事業計画というのは民間でやり

ます。それに付属するというか、接続するような道路等そんなのはやはり我々でやっていかなくてはいけないかなと思う部分がありますので、その部分についてはできれば私たちは大きいところでお願いしたいと思うんですけど、無理というか状況で難しい部分があれば、町でするにしても優先採択をできるようにしていただけるとありがたいなと。こんなことを今思っ、全体の設計予算については町の方で今見ております。これからどんな形で、ルートもどうやるかというのもまだ定かにはなっておりませんが、本体の事業計画というのは上手くいったらオリンピックに間に合うように、という形で今進めております。まだこれから合同会社を作って、それからアセスメントをやって、具体的に設計に入っていきますのでちょっと時間はまだかかりますけれども、カツカツ間に合うかなというふうにも思います。

ただ、県さんの方へ要望しても今厳しいなというのがよくわかっていまして、来年サミットで、昨日副知事の方から牽制球を投げられまして、50 数億円かかるかわからないんだと言われておりますので、あまり無理なことを言うとダメかなと思うんですけども、僕は控えめな性格ですのであまり無理を言いませんけれどもそう思っています、今。

知 事

ありがとうございます。おっしゃっていただいたように、国の社会資本整備交付金等含めて、様々優先採択等できるように我々も一緒に働きかけをしていきたいというふうに思います。県としてはもちろんサミットでお金がかかるということはまあ、県土整備部はそういう言い方をするのかもしれませんが、私としてはサミットの公共事業の場合は、今回サミットのためにやる部分も多少あるものの、基本的にはいつかやらなければいけなかったものをこのサミットのタイミングで前倒しして公共事業をやるという考え方ですので、そうしないと他の全体にしわ寄せがいつかサミットだけということになってはいけないと思っていますので、そういう公共事業の考え方の中で、商業施設の中の道路とか商業施設ができたことの連結ということについて、ここのアクアイグニス多気だけ認めていくというのは、県としては大義が必要になってくると思いますので、いずれにしても、個別の詳細が明らかになってくる中で、どういう財源を探していけばいいのかということ、よく多気町さんと連携して議論していければというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

多気町長

知事のおっしゃるとおりで、多気町のためだけにというのは、これはもし僕

が知事だったらそれは同じことを言うと思います。ただ、前回もちょっと話をさせてもらったと思うんですけども、この事業計画というのはもう多気町だけではできませんので隣の大台町さんや遠いところでは伊勢からの誘客もありますので、伊勢市の商工会議所、そんなところにもお話をさせてもらっております。多気町だけのアクアイグニスではありません。中南勢地域の活性化のためにたまたま多気町と大台町の境のところへ計画を持ってきていただいたということで、これから水のことについても、もちろん人のことについても、それから地元食材の提供の場も作りますので、南伊勢町さんや尾鷲市さんやらその辺の食材もお願いしますということも言うてあります。大台町長からも水のことやら地域の協力についてはということで全面的に協力をしていただいております。再来週、大台町へ行って事業計画も話させてもらってきますので、知事の頭のこの辺にでも置いていただいて、多気町の計画ではないんだと、中南勢地域の計画なんだと。もちろん、食につきましても食材全て周辺地域からお願いをしなければなりませんし、雇用につきましても10人や20人ではありませんので、何百人という人になりますと、近隣の多気郡3町は大台町長や明和町長にもお願いをして順調に動くようになったら人の提供もお願いします。ということもお願いしていますので、まさに中南勢地域になんとか、東京や大阪や名古屋へ行かなくてもいいようにあそこで止まるということをしていきたいと思いますので、多気町だけのものとは違うんだと、思っただけであればありがたいと思います。

3 鳥獣被害防止対策について

多気町長

3つ目の項目です。鳥獣被害防止対策につきまして、鳥獣被害防止総合対策協議会補助事業の中で獣害対策としましてサルの習性を利用し、若いメスが捕獲された時に群れの位置が分かるように発信機を装着して逃がしております。それと同時に群れの個体数が増えないように避妊治療も施したいので、避妊治療費も補助のメニューに加えていただきたい。野生鳥獣生息環境創出事業「里中と山林との緩衝地帯設置による伐採」というものにつきましては、里中に接する山林を伐採して里中と山林との距離を離すことによって、獣の隠れ家をなくし里中に近づけないよう、昨年度事業を採択していただき、非常に獣害対策として効果が出ております。本年度も実施していただく予定ではありますが、来年度からこの事業が廃止になるような話を聞かせていただきました。ぜひ廃止をせずに継続をいただき、事業としての採択をお願いをしたいと。

また、併せて、本町はこの 9 月からバイオマス発電所向けのチップの確保のために、地域住民等から木材や竹材、その集積を町の事業として始めておりました、これも里山保全と獣害対策を目的としております。当面は資源収集の買い取りに対して、町独自の補助を行っており、今後この事業に対しても県として支援されるようお願いをいたしたいと思っております。

知 事

獣害対策について、何点かお話いただきました。まず 1 点、避妊治療費の追加の関係ですけれども、確かに今サルが、特にシカは出口の部分三重ジビエなどで取り組みをやってきましたので、僕が知事になった頃はシカによる農林水産被害が全国 7 位ぐらいだったのが、今 17 位ぐらいまでシカは下がってきていまして、シカとイノシシはだいぶ効果が出てきているんですけれども、サルがかなり中々まだ決定的な取り組みができていないという中なんですけれども、実はこの前、伊賀市で ICT を活用したニホンザルの大量捕獲の実証実験みたいなのをやらせていただいて、これが結構功を奏して効果があるというようなことになっていきますので、多気町さんは今、サルの群れに発信機を装着して群れの動向を把握しているということだと思いますので、多分その ICT の伊賀で使った大量捕獲のやつをやると、群れの頭数をコントロールできたり未然防止等にもつながるといった話もありますので、多気町さんはすでに、サルの群れに発信機を装着してやっていただいていますから、ぜひこの ICT を活用した大量捕獲等にもチャレンジをしていただくと、我々そういう支援もさせていただければというふうに思っています。一方で避妊のやつは、多分何回か前の 1 対 1 対談でも久保町長から言っていたと思うんですが、私もそんなに詳しいわけではないんですけど、避妊効果の期間が不明瞭であるということとか、外科的処置をやって現場でやるというのは中々対応が難しかったり、処置に時間がかかると放獣後、群れに戻れなくなる可能性が高くなる等、結構課題が多いという、いわば費用対効果が見えにくいというような部分があるようですので、避妊措置というのはちょっと難しいのかなというふうに、課題が大きいのかなと思っていますので、先ほど申し上げたような、ICT を活用した大量捕獲でこの効果を上げていくというのがいいのかなというふうに思っています。

それから、「里中と山林との緩衝地帯設置による伐採」の継続ですけれども、これ評価をしていただいて大変ありがたいと思っていますし、県としても 12 市町でこの事業を使ってやっていただいて、一定の成果があったというふうに思っています。一方でこの平成 24 年度～27 年度で、ということでやってきたものでありますので、効果があったからずっと継続というのも、もちろん効果があったら続けたらいいということなのかもしれませんが、よく予算編成の中で議

論していきたいと思いますが、基本的には4年間のみの事業だという形の中でやってまいりましたので、むしろ他の国の鳥獣被害防止総合対策交付金等、そういうのでも鳥獣被害防止の取り組みを支援できますので、そういうのを活用するとか、いずれにしてもこの厳しい財政状況ですけれども、平成28年度予算に向けて議論をしていきたいというふうに思っています。

全般的に今回行動計画の見直しに、県の場合入りますので、重点取り組み等の考え方を整理することになりますので、獣害対策というのは、今まで緊急課題解決プロジェクト等々に入れてあったわけですけれども、そういうのも大きく議論が変わっていきますので、これまでの成果等も踏まえて優先順位につけた形で事業構築していきたいというふうに思います。

それからバイオマス発電用の資源集積については、地域住民の方が伐採した木材や竹材の買い取り、先ほどおっしゃっていただいたように町独自で補助をしているというのは大変有意義な取り組みであるというふうに思っていますので、我々もチップの供給については非常に重要な点だと思っていますので、しっかり連携して取り組んでいきたいと思いますが、すでに津市さんとか名張市さんでは森と緑の県民税の市町交付金を活用して木質バイオマスの搬出等の支援をされておりますので、こういうもののご活用もご検討いただくと、よりバージョンアップしていけるのかなというふうに思っています。

いずれにしても獣害対策は効果があるものとそうじゃないものとあるいは中々効果が見えにくいもの等様々ありますので、よく事業については精査をする中で取り組みを次年度検討していきたいというふうに思います。

多気町長

特に獣害については、うちの議会でも、今前に議員さんがいますけれども質問があります。多気町でこんなことを言っていたら本当、大台町ではこの間町長とも話をしていましたら比ではないぐらい向こうの方がもっとひどいみたいで、特にサルは防ぎようがないぐらい、電気柵を上やってちょっとぐらいあるかな。農家の方がせっかく丹精込めて作ったものがもう翌朝には何もなくなっている、こんなことはやっているものじゃないとわからない。日本全国に色々な、今日はマスコミの方も見えるのであまり過激なことは言えませんが、農家の方で作った作物をみんなやられてしまう、それも一番おいしい時期にやられてしまう、こんな悔しい思いをしているのは町の人にはわからない、保護団体やそういう組織をしている人にはわからない。何とか予防をできればということで、ひとつは今ちょっと私の方で話をさせていただきましたバイオマス、特に竹藪というのが多気町の集落の近くまでいっぱい来ていますので、自分の思いはそれを地元の人に切ってもらって、少しでも里山広げて、獣を山に送る

ようにということで、今 25 の団体と、関係、直接これ参加してくれたのは 50 人ぐらい、全体で 300 人ぐらい集まって、参加をして、自分たちの集落の竹や木を切ってバイオマスの発電所の材料にしよう、チップにしようとして協力をしてきていて、今週の土曜日に研修会、森林組合が来て切り方やそんな研修会をやっていただきます。そんなことをしてやっていきたいと思います。

それと、避妊については、熊野市の河上市長も私も同じ思いで、避妊薬を撒いたらどうだというのをずっと、去年かな、農水省の方がみえた、大台町で会議やった時にみえたときも避妊薬をえさに混ぜて、動物用のものをつくってやったらどうですかと言ったら「それをやると生態系が壊れるのでダメです」と。多分農水省の方はダメですとは言わないと思うんですけど、違う団体の方が言われると思います。でも今生態系が本当に壊れている。大台町なんかはもう奥の方行くと獣の方が人口より多いんだとよく言われていますけれども、本当に深刻な問題だと思いますので、こういう助成事業につきましては、また何かの形で応援をしていただければありがたいなと思います。

知 事

おっしゃっていただいた通り、農家の皆さんの深刻な部分については、私たちもそう思っていて、なので、三重県では獣害対策課という名前の課は高知県とうちにしかありませんので、そういう獣害対策を専門にやる部署を設置してやらせていただいています。今 5 年目迎えていますけれども、その取り組みの中で、例えば侵入防止柵等も一定の面積広がってきて延長距離もだいぶ広がってきて効果の面積も広がってきているんですけども、一方で被害額は減っているんですけども被害件数は増えているというようなことがありまして、これは侵入防止柵等が届かない小規模な農家の人たちのところ等に獣害の被害が及んでいるという、それが及び続けているというような状況だというふうに思っていますので、そういう現状も踏まえた中で、どう対応していくかというようなことも含めて、今町長がおっしゃっていただいたような町独自のそういう竹の伐採等での取り組み等も、先進的な取り組み等も応援させていただきながら、獣害対策にしっかり取り組んでいきたいというふうに思います。

多気町長

ありがとうございます。私どもも多気町よりももっとも森の多いところへ行ったらもっと被害のあるところがあると思いますので、その辺のところもまた勉強できればと思っています。また、いい事案やそういうのがあれば教えていただきたいと思います。

多気町長

これはうちの PR ですけれども、今年の 10 月の 3～4 日と、マウンテンバイクの、去年は公認のレースをやりました。一応これで自分が町長にさせていただいてから「多気町を自転車の町にするんだ」というのが目標の国際大会、ほとんどアジアですけれども、こぎつけられたと。いうところで、10 月の 3～4 日と、ここにちゃんと貼ってくれてありますけれども、大会があります。今日おみえの皆さん、プレスの方皆さんも、もしよかったらどんなレースをやるのか見ていただければと思います。去年は、あんなことは無いと思いますが、あの時期に台風が来まして、泥んこの中でやりました。それでもやはり選手たちは雨の中ぬかるんだ道をビックリするようなスピードで走っていました。若者の熱気というかそういうのを感じます。今年は多気町に専門家を置きました。中島選手、結構世界でも活躍している選手ですので、頑張ってくれています。コースの方も北京オリンピックの監督を試してみえた西井さんがコース管理をされましたので、そういう選手の間でも全国に無いいいコースだと、こう言われていますので、時間がありましたら知事も走っていただければありがたい。11 月の 6～7 日、「全国高校生“S”の交流フェア」というのがあります。これはまさに多気町の食の町を PR するのに絶好の機会であります。北海道から沖縄まで全国の高校生たちが 12、3 校かな、今年はもうちょっと増えるかも。それと、韓国の、日本で言う短大かな、専門学校の生徒も参加をしてやってくれます。こういうことで、全国の高校生たちの食の交流というのをやりますので、また皆さま方もよかったら 11 月ですけれども、S の交流フェアというのがありますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(3) 閉会あいさつ

知 事

久保町長ありがとうございました。まずサミットについては、前向きな、かつ具体的な魅力的な提案をいただいておりますので、しっかりひとつでも多く採用されるように私たちも国に向けて働きかけをしっかりと強めていきたいというふうに思っております。

それから、今先ほどのマウンテンバイク、それから S の交流。そういうような形で非常に情報発信をしっかりやっております。こういう地方創生の中で他の地域と競争となっている中で、積極的に情報発信をしていただいているというのは大変ありがたいことですし、その情報発信が生きていくように、先ほどの獣害対策とかインフラの整備とか、やはり地方創生において、競争す

るなら競争条件が一緒じゃないと競争できないよね、というようなことを私たちも国にもしっかり言っているところでもありますけれども、そういうこの情報発信が生きる、そしてそれが成果に結びつく、そういう連携・応援を私たちもしっかりやっていきたいというふうに思っておりますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。本日はどうもありがとうございました。